

<株式会社エフエム東京 第 480 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：令和 3 年 7 月 6 日（火）
2. 開催場所：オンライン開催
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（5 名）

ロバート キャンベル 委員長 佐々木 俊尚 委員  
松田 紀子 委員 山口 真由 委員

◇欠席委員（1 名）

秋 元 康 委員 川上 未映子 委員

◇社側出席者（8 名）

唐 島 代表取締役会長  
黒 坂 代表取締役社長  
小 川 取締役  
内 藤 執行役員編成制作局長  
延 江 編成制作局ゼネラルプロデューサー  
宮 野 編成制作局次長 兼 編成部長  
若 杉 編成制作局制作部長  
砂 井 編成制作局制作部チーフプロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 内藤放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（約 27 分）

『THE TRAD』

6 月 16 日（水）、17 日（木）15：00～16：50 放送のダイジェスト

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■4 月聴取率調査 付帯調査 ラジオの聴き方について

▼最もよく利用するラジオの聴き方 (TOKYO FM リスナーの回答)

回答者数	1,245	771	2,016
	男性 18～49 歳	女性 18～49 歳	男女 18～49 歳
放送波	57.8	45.1	53.0
ワイド FM	4.4	6.3	5.1
radiko ライブ	17.3	25.0	20.2
radiko タイムフリー	12.9	14.4	13.5
radiko 以外アプリ	1.1	1.1	1.1
ポッドキャスト	1.4	1.4	1.4
その他	1.3	0.6	1.0
それ以外	2.7	1.4	2.2

※ピンクの着色が、トップ回答。薄黄色が次点。

「最もよく利用するラジオの聴き方」を問うシングルアンサーの質問に対して、TOKYO FM リスナーは、50%超が放送波（チューナー経由）を選択、次点として約 20%が radiko のライブ聴取と回答しました。これは、年代別に見ても、10 代から 40 代まで同じ傾向でしたが、唯一 20 代女性層のみ、radiko タイムフリー、radiko ライブ、放送波利用が共に 27% 程度と回答が分散しました。

▼最もよく利用するラジオの聴き方 (18～49 歳男女・在京他局との比較)

回答者数	3,339	2,016	1,526	1,668	2,136
	全局	TOKYO FM	J-WAVE	TBS ラジオ	ニッポン放送
放送波	51.1	53.0	54.2	32.7	37.8
ワイド FM	5.1	5.1	7.5	6.0	7.1
radiko ライブ	17.6	20.2	19.3	21.3	19.8
radiko タイムフリー	16.2	13.5	10.5	32.6	30.7
radiko 以外アプリ	1.4	1.1	0.8	1.9	0.9
ポッドキャスト	1.2	1.4	1.5	1.4	1.0
その他	1.4	1.0	1.8	0.7	0.7
それ以外	3.2	2.2	1.1	1.8	1.1

## <第 480 回放送番組審議会議事録>

在京他局と比較すると、**J-WAVE** は当社と同じく放送波利用が多数派の傾向でしたが、**TBS** ラジオ、ニッポン放送では年代が若くなるほど、**radiko** タイムフリーを筆頭に挙げる回答が多く、深夜の人気番組をタイムフリー聴取するスタイルが定着化していることがわかりました。尚、これは【18～49 歳男女】に限った集計ですが、「**ワイド FM**」の利用率は、**TBS** ラジオ、ニッポン放送リスナーで 6～7%に留まっていることもわかりました。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○タイムフリーで聴くことが増えている、特に深夜放送は、ファンが昼間に番組をタイムフリーで聴くことが多いと伺った。そうなってくると今後は **TOKYO FM** も電波で生放送をながら聴取で聴かせる番組作りから、番組単位で目的聴取を狙う番組作りにシフトするなど、番組制作のありようにも変化を求められると思うが、そのあたりは何か分析があるのか。

■今現在タイムフリーで聴かれている番組は、深夜の話題性のある番組や、ビッグアーティスト、アイドル番組が多くなっている。現在の聴取率調査ではタイムフリー聴取は対象とされていないが、もしかしたら調査の申告の際にはタイムフリーで聴いたものをリアルタイム聴取という形で申告している人がいるのではと推測される。今後さらにタイムフリー聴取は増えてくると思うし、タイムフリー期間を拡大するという議論もある。全てではないが、作り方に工夫が必要になってくるとは考えている。

○TBS ラジオでは **radiko** を非常に重視していると社長が話題にしているのをどこかで拝見した。若手を意識してのことだと思うが、**TOKYO FM** がターゲットとしている 18～49 歳という層の中で、ミレニアル世代よりも下の世代の割合についてはどうとらえているのか。若い世代だけにフィーチャーしたコンテンツはどうかと思うが、他の放送局と比べて **TOKYO FM** のターゲット層の違いや、今いる層へもきちんとリーチし、さらに若い層を取り込むことについて、バランスなどどう考えているのか。

■元々、当社のメインターゲットは M1F1、つまり 20 歳から 34 歳の男女として、番組編成をおこなってきた。それを一昨年の秋から、現在の 18～49 歳の男女に変えた。質問の回答からは少しずれるかもしれないが、ターゲット変更の背景には、時代のトレンドをけん引するのが若者であるというのが曖昧になってきたことがある。高度情報化時代では、人間は精神面で年齢通りに歳をとらなくなったという分析もある。若年層を確実に狙うということが広告業界でも薄れてきて、大手広告代理店と相談してこのターゲットを決めた。この世代に絶対的にこだわろうという訳ではなく少し曖昧さもあっていいとは考えている。また、AM 局が **radiko** に力を入れているのは音質にも原因がある。中波はもともと音があまりよくなく、FM 放送はとても音がいいことが特徴とされてきた。なので、FM 補完放送が生まれたが、受信機が対応していないこともあって、放送で聴くよりノイズの少ない **radiko** で聴く人が多くなっている。FM の場合は逆で、音

<第 480 回放送番組審議会議事録>

楽をメインに聴いている場合は **radiko** より放送波の方が良い音質で聴けるとい  
うことがある。ただ、今後 **5G** がどんどん普及して音質が良くなっていくと、ま  
た変わってくると考える。その時は **FM** 聴取者も **radiko** に移行する人が増加す  
ると想定される。

## 議題 2 : 番組試聴

### 【番組名】

『THE TRAD』

6月16日(水)、17日(木) 15:00~16:50 放送のダイジェスト

### 【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、平日月~木 15時から放送中のワイド番組『THE TRAD』のダイジェストです。この番組は、ラジオの中の架空のレコードショップを舞台に、月曜・火曜パーソナリティを稲垣吾郎と吉田明世、水曜・木曜パーソナリティをハマ・オカモトと中川絵美里がつとめ、「上質な音楽を、じっくり味わう。」をコンセプトに、毎日テーマを設けた選曲と、こだわりを持つゲストを招きお届けしています。

6月の一ヶ月間は、TOKYO FMの6月度マンスリーキャンペーン『RADIO VACATION -TOKYO CITY POP-』にちなみ、番組内で多方面からシティ・ポップを特集しました。

本日ご試聴いただく6月16日(水)、17日(木)の放送回では、シティ・ポップを中心とした選曲と、ゲストコーナーではシティ・ポップの源流といわれる「はっぴいえんど」のメンバーだった細野晴臣を迎え、パーソナリティのハマ・オカモトとの対談をお届けしました。改めてシティ・ポップとは?当事者である細野晴臣が自身を振り返りつつ、世代の違う2人のミュージシャンがシティ・ポップ対談を繰り広げました。



**【委員の意見および社側説明】**

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○この1 ヶ月はいつもより TOKYO FM を聴く機会が多かったが、シティ・ポップの特集は、聴くたびに本当に爽やかな気分になった。バブル前の日本が一番成長していた勢いのある感じを軽やかに歌っていて、それが今の閉塞した雰囲気の中で逆に希望が持てるようで、すごくマッチしていると思う。

○ハマ・オカモト氏と細野晴臣氏との対談は、今回初めて聴いたが、世代の違う2人のアーティスト対談が大変聴き心地が良かった。散漫になりがちな、当たり障りのない会話が繰り広げられる番組も多いなかで、芯を食っているという感想。細野晴臣氏がここまで“あけすけに”、素直な感じで語っているのもすごく新鮮な印象で、ハマ氏が崇拜も込めながら、自分の意見を滔々（とうとう）と述べるところに、学びがあり、シティ・ポップの奥行きを感じ、非常に楽しく、1リスナーとして拝聴した。

○大変興味深く思ったのは、番組の中でハマ氏が発言していた「音楽配信が定番になったことで、作詞家の名前が知られず、広がっていかなくなった。それがすごく残念だ」ということ。CDやLPが主流の時代には、ライナーノーツがあって、そこに作詞・作曲・編曲の担当者が全部書かれていたのを楽しみ読みながら、音楽を聴いていた。ストリーミングサービスで聴くようになってからは、歌詞は載っているが、制作者は載っていない。それはよく考えたら音楽業界にとって痛手なのではないかと思う。それこそこれは、TOKYO FM に番組で楽曲をオンエアして紹介する際に、しっかりと制作者までを紹介するなど、地道に伝えて欲しいと思った。それは音楽ファンや音楽関係者に支持されると思う。きちんと身内から盛り上げて行くことも大切。全ての番組では難しいかもしれないが、せめて、音楽を掲げたこの番組では実施して欲しいと考える。聴きごたえのある良い音楽番組だと感じたので、さらなる差別化を期待する。

■とてもいい提案だ。ぜひ実践していきたい。

○以前も、ストリーミングで音楽を聴くようになってから音楽に時代性がなくなってきて、全てが同じ土俵でフラットに聴かれるようになった、という話をしたが、シティ・ポップも同じで、古い音楽だと認識されていないと思う。70年代、80年代のシティ・ポップの楽曲を海外の若いアーティストがカバーしたことがキッカケで再ヒットに繋がったという話を聞くが、カバー楽曲で知った人は、元の楽曲がいつの時代のどんな流れを組むジャンルの音楽かは全く認識していないだろうと思う。その時に、音楽をどういう導線で聴くか、というのが難しくなってくると思う。音楽に限らず、映画やアートとかにも共通するが、インターネット以前の時代では、「ぴあ」という雑誌があって、その月のニューアルバム、

公開の映画、展覧会の情報などが全て載っていて、最新の文化を知りたければ、まずそれを読んでおけば、という明確な導線があった。今、紙としてのぴあはなくなってしまい（アプリでは残っているが）、結果的にポータル的な、ここに行けば音楽情報が仕入れられる、という場所が消滅してしまっている。ラジオはその役割を担うはずだったけれど、そこまで多くの人に聴かれていないという悩ましい問題もある。ストリーミングでは、自分の好きな音楽しか聴かないという状況になってしまう。おもしろい動きだと思うのは欧米ではストリーミングのプレイリストを聴くことが増えてきている。「ドライブミュージック」とか「静かな夜に聴きたい音楽」とか、そこから新しい音楽に出会っているとか。でも、まだ日本ではプレイリストを聴く文化が全然盛り上がっていない。日本ではどちらかというと、ファン層が自分の好きなアーティストやグループの音楽を聴くということが中心でなかなか広がりにくい状況となっている。先ほど、音楽の制作者の話が出たが、昔は音楽を体系的に聴く文化があった。好きなアーティストの源流を聴くとか、音楽の世界全体の知識として聴く、それはロックでもジャズでもクラシックでもあった。今は時代性の消失などもあって体系的に聴くのが難しくなって、さらには音楽が膨大な数となって体系があるのかさえ分からなくなってきている。いかにファンでない人に音楽との新しい出会いを届けるか、新しいラジオのあり方というのを期待したい。

○音楽の玄人同士でありながら世代の違う 2 人の対談は大変興味深かった。お互いに対するリスペクトがあったから、かなり本質な話ができているのだと思う。今も昔もラジオというのは、音楽に関するキュレーションメディアであるということに改めて強く感じた。この人が選んだ音楽を聴く、という意味で。その本質は変わっていない。変わったことは、他のメディアが増えた、ということ。逆を言えば、他のメディアが増えた今だからこそ、質を担保してくれるラジオというキュレーションメディアの位置づけに重要な可能性があるのだと感じる番組だった。

○ひとつ感じたこと、これは、面白いなと思ったことでもあるが、視聴者層の玄人と素人をどう取り込んでいくか、ということ。大衆メディアというよりは、ある種のセレクトティブで質が担保されたものを聴きたいというのが実態だと思うので、それは維持しつつも、みんなが入ってこられるように工夫することも必要だと感じる。この番組を聴いた時に、とても印象強く感じたのが、音楽を聴きつくした玄人中の玄人であるハマ氏が、パートナーである中川氏のシティ・ポップの選曲に対して「そんな真ん中の曲僕には選べないよ」と述べていて、中川氏の立ち位置は素人のリスナー側にあったと。このあたりのバランスがとても重要になってくると感じた。他では得られない玄人的なコミュニティを出しつつ、多くの人を排除しない作りが課題になってくるのかと感じた。

■大変多くのヒントを頂いた。番組作りに活かしていきたい。



6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「ドライバーズインフォ」

7月31日(土) 5:55～6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>